

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)	
<p>「ふるさとを愛し 夢と希望をもって探究し続け 未来を切り拓く子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合う子ども ・自分を高める子ども ・他者とつながる子ども <p>網野学園「教育目標・目指す子ども像」の実現を目指し、学園の園所・小中学校の保育・教育から謙虚に学び、常に自校教育の改善に努める。</p>		<p>○生活科や総合的な学習の時間を中心に地域人材活用のあり方の研究が進み、その活用が学びの質的向上につながった。</p> <p>○異年齢活動を中心に子ども主体の行事取組を設定することが、一人一人の主体性や仲間との協働性を高めることにつながった。</p> <p>△個別の学力課題への対応を継続し仲間とともに自信をもって学びに向かう意欲の向上と授業改善に努める。</p> <p>△児童に係る多様な課題への支援、関係諸機関との連携による保護者・家庭支援に努める。</p>		<p>「安心感の中で一人一人が自分らしく挑戦し確実に前進する学校～肯定的評価を基盤とした教育活動の推進～」</p> <p>【大切にしたい5つの重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活における誠実な努力 ・約束を守り、自他を大切にすること ・知恵を集め、新たな価値を生み出す力 ・児童・教職員の達成感と次への意欲 ・保護者・地域からの信頼 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価	
<p>学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>教育課程学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びについての研究をさらに深める。 ・授業づくりと学級づくりを一体と捉えた指導を充実させる。 ・自校の学力課題を整理し、改善に向けた取組の推進とその検証に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の生活科・総合的な学習の時間の研究における「なぜ」「どうすれば」を出発点とする学びの充実を日々の各教科の指導にどのように生かすかについて研究を深める。 ・各教科における単元構想や指導方法等について、各担任の発想や創造性を大切に互いの実践から探究的な学び、子ども主体の授業について学び合う、主体的な授業研究を推進する。 ・学びのパスポートをはじめ各種学力テスト等の結果について「網野学園で育てたい力」の視点から効果的な結果分析のあり方や経年変化からの個の学力状況・今後の課題等の把握に努め、授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「課題設定」「自己選択・決定」「思考を深める問いかけ(比較・関連付け)」等、授業研究会で明らかになってきた授業づくりのポイントを整理・共有し日々の授業の中で生かすことができた。 ○子ども主体の授業において「子どもに委ねる場面」と「指導者が束ねる場面」のバランスを意識した単元構想の重要性を確かめ合うことができた。 ○学年や個々の学力状況を経年比較しその伸びや課題を整理・共有することで個別の具体的な手立てにつながった。 △各種テスト・質問調査等から個別の学力課題への対応・改善を継続し、より個別最適な学びや支援につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観した授業の中で、担任が丁寧にねらいに気付かせ、立ち返ろうとしていることがよく伝わってきた。 ・今学校で目指している授業の姿と保護者等がイメージしている授業の姿とが離れてはいないだろうか。 ・授業改善を進めていく上で、保護者にも「どのような方法」で「どのような姿」を目指しているのかを丁寧に説明し理解を求めていくことが必要であると感じる。 	
	<p>生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の充実を基盤として自尊感情・自己有用感を高め、居心地のよい教室・仲間づくりを進める。(安心できる居場所づくり) ・児童の実態や変化を全教職員で把握・共有し各会議との連携を図り、いじめや不登校の未然防止に努める。(個・集団のアセスメント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導提要の改訂趣旨を踏まえ、肯定的な評価と学級経営の連動についての研修を定期的実施し児童のよさ、誠実な努力を引き出す指導を大切にする。 ・特別活動等において児童の発想や主体性を大切に、失敗の中から学び、工夫・創造し挑戦する力を高めるとともに自他の成長を喜び合える力を育成する。 ・部会の定例化と日々の気づき、交流の中から児童の変化への丁寧なアセスメントを行う。その中でSC・SSWや関係諸機関等との連携の中で、具体的な動きづくりにつながる役割分担のあり方等、学校としての方針を明確にし、対応の向上充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「発達支持的な生徒指導」のあり方について理論と実践の両面から研修を実施し子どもたちの心に迫る肯定的評価、指導支援について学び合った。 ○各行事・取組において児童の発想や挑戦を重視し高学年を中心とした異年齢活動の中でつながりが深まり、所属感や一体感を高めることができた。 ○欠席の続く状況が見られた場合に、教育相談部を中心に児童・保護者等へのアプローチを適切に行い、不登校への未然防止に努めることができた。 △児童・保護者等との信頼関係が学級・学校の安定につながる。話を丁寧に聞くこと、思いや願いを丁寧に伝えることを大切に子どもたちの安心できる居場所づくりをさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と担任との信頼関係がたいへん重要であると感じた。 ・担任の願いや思いを保護者も十分理解し、我が子にも「担任の先生はあなたのことをこんな風に思ってくれているよ」と伝えることで、児童と担任とをつなぐことも今後ますます大切になる。 ・少人数である本校のよさを生かし、さらに異年齢活動を充実させ、その中で低学年への思いやり、高学年へのあこがれ等を育て、高めていってほしい。 	

健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の健康・安全、命を守る教育の充実と教職員の危機管理意識・実践力の向上を図る。 ・運動の楽しさや喜び、心身の健康の大切さを感じさせる授業や活動を推進する。 ・望ましい生活習慣の確立と安全な登下校、事故防止に係る知識・実践力を高める指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事例から本校の危機対応のあり方や危機管理意識を高める研修を継続するとともに、日々の児童の活動環境や活動内容等について天候や健康状況等から適切に判断・設定することを心がける。 ・本校で大切にしている異年齢活動を生かしながら、仲間とともに活動する心地よさを感じさせるとともに、授業や体育的行事・取組の中で「自分に適した場や運動の設定」を大切にし、自分らしく意欲的に挑戦させる。 ・課題の見られるゲーム・SNS等の視聴について網野学園「幼児期から大切に作る家庭で育てたい力」や「子育て講演会」等を踏まえ、家庭ルール確立に向けた啓発を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症対策や各警報等への対策等、従来のマニュアルの見直しや誰もが適切に対応するための研修等を行い、児童の命・安全を守る意識を高めることができた。 ○休み時間等には多くの児童が異年齢でグラウンドや体育館で遊ぶ姿が見られる。また、そこに担任も積極的に参加しともに楽しみ汗をかく心地よさを共有することができた。 ○体育においては低・中・高の合同体育も位置付け複数の指導者による多様な場の設定や肯定的な評価を継続することで運動が得意な児童も苦手な児童も自分らしく挑戦する姿が見られる。 △「家庭でゲームやネット視聴のルールがある」は65%にとどまっており、今後一層の啓発・継続した指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい暑さの日や大雪の日等の学校・地域の見守りに感謝している。児童が安心して登下校できる環境が整えられていると感じる。 ・家庭生活の仕方や役割分担等が変わってきている。また、保護者同士で語り合う機会も少なくなってきたり、そうした関係が児童の生活習慣や言動に表れている。 ・ゲームやネットの使い方やルール等は家庭でも避けては通れない今後の課題であり、啓発を続けてほしい。
情報活用能力 (ICT活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びの充実及びコミュニケーションツールとしての活用のあり方について研究をさらに進める。 ・家庭学習をはじめ広く教育活動における活用の手法を研究し個別最適な学びの実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は2学期以降のChromebookへの端末変更も想定し「ICTタイム」(情報活用能力を高める時間)を活用したクラウドサービスを授業で効果的に活用する機能等を系統的に学ばせる。 ・その中で情報モラルや活用ルール等も発達段階に応じて指導し、家庭への持ち帰りも含め、日々の活用の質を高めるよう努める。 ・網野学園「家庭学習の手引き」の改訂を機に、主体的な家庭学習のあり方について学園として研究を進める。 ・「整理」「探究」「予習」「補習」等、家庭学習におけるICT活用の視点を研究し、授業と家庭学習とをつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ICTタイム」の中で低学年においてもICT端末を授業で活用するためのスキルを高めることができた、スムーズな移行を図ることができた。 ○学びのパスポート質問調査「学習をする時にICT端末を使うことで友達と意見や考えを共有しやすい」は府平均を上回り、コミュニケーションツールとして効果的に位置付けてきたことが窺える。 ○日々の家庭学習や長期休業中の学習においてもICT端末の活用が定着しペーパーレスでの課題配信や取組状況の把握ができた。 △ICT端末の活用が加速する中、情報モラルの向上をより意識し適切な活用に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習端末になったと聞いたが、授業の中で自在に使っている姿が印象的である。 ・学習の苦手な児童も学習端末を使って参加している。得意な子と苦手な子との差が生じることを心配していたが、一定活用が進んでいると感じている。 ・学習端末の活用と同時に、対面で自分の意見を伝え、相手の意見を聞く活動も大切にしてほしい。
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の小学校とのオンライン交流会の機会を生かし、コミュニケーションツールとしての英語運用能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「京丹後市学びの変革推進事業」を活用し本年度もPark Wood primary school(オーストラリア)とのオンライン交流会を計画する。 ・交流に向けては本年度から導入される5・6年を対象とした英語力向上支援ソフト「ELSA for schools」を活用し「伝えたい」「挑戦してみたい」という意欲につなげる。 ・「Kyotango English Camp」や今後中学校における「中1オンライン留学」や「中2中学生海外派遣」等への参加意欲につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ELSA for schools」を活用した市主催の「Reading contest」では、本校児童が優秀賞や努力賞を受賞する等、意欲的に取り組む姿が見られた。 ○Park Wood primary schoolとは日程の関係で交流会は設定できていないが、体験学習の様子や修学旅行の画像を送付し合い、外国の学校の生活や学びの様子を感じることができた。 △市の目指すグローバル人材育成に向けて「ELSA for schools」等を活用した学びを生かす場を今後も効果的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテストでの入賞等が今後の励みや自分もがんばってみようという気持ちにつながっていくとよい。 ・「伝えてみたい」「伝わってうれしい」という体験が大切であるとを感じる。 ・英語や外国に興味・関心、意欲をもって学びたいという児童を広げていってほしい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びをさらに充実させ、児童の学習意欲、思考を深めることで日々の授業の質を高める。 ・児童・保護者・地域とつながり、対話を大切に信頼・協働による学校経営を推進する。 ・肯定的な評価を基盤とした教育活動を継続し、児童にとってより心理的安全性や居場所のある教室・学校を目指す。 ・高学年を中心とした温かい異年齢活動を重視し児童が考え、実践し、失敗から学ぶことができる主体性を育む。 ・児童支援部を中心に多様な児童課題への指導支援、関係諸機関との連携による保護者・家庭支援を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の取組や他校との連携等を大切にすると同時に、本校の児童・地域のよさや実態に応じた独自の取組も大切にしてほしい。 		